



感謝の気持ちを届けた「6年生を送る会」

校長 土屋 智樹

寒暖定まらぬ毎日が続いておりますが、日差しは春の暖かさを感じることできる季節になってまいりました。いよいよ今年度最後の月、3月を迎えました。旧暦で3月は、「弥生」と言います。これは、暖かな陽気にすべての草木がいよいよ茂るという意味の「弥生（いやおい）」がつまって、「弥生（やよい）」になったとされています。少しずつ春が近づき始め、冬の間じっと耐えていたたくさんの花や木々がいよいよ成長するように、冬の厳しい寒さを乗り越えた子どもたちにも、この1年間で大きく成長した姿が見られるようになりました。1年間のまとめの時期として、子どもたちには、これまでの成長や課題を確認するとともに、進学や進級に向けての意欲を高めながら、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

さて、3学期、学校ではまとめの時期として、「6年生から伝統を引き継ぐ」、「支えてくれた人に感謝を伝える」といった内容の活動が行われます。その一つとして、先日、6年生を送る会が行われました。会の冒頭では、これまでの6年生の活躍ぶりを「おめでとう6年生」と題したスライドショーで振り返りました。これは、代表委員会の児童が作成したもので、学校を支えてくれた6年生の卒業という門出をみんなで心からお祝いしたいという思いでいっぱいの内容でした。その後、「ありがとう6年生」というテーマでの各学年からの出し物と、6年生から在校生へのプレゼントが披露されました。

1年生は、「だれだっておたんじょうび～6年生おめでとうバージョン～」を歌い、6年生にも誕生日月に返事をして立ってもらうなど楽しく祝いました。2年生は、キレイのある格好いいダンスと「ゆめをかなえて みなみっ子」を歌い、会を盛り上げました。3年生は、6年生への感謝の気持ちのメッセージを全員で分担し、一人ひとりが自信をもって6年生に伝えていました。4年生は、とてもきれいな声で「離任式の歌～6年生バージョン～」を歌い、最後に一文字ずつ書いた「ありがとう」のメッセージを高々と掲げました。5年生は6年生にロックソーラン節の対決に挑み、6年生から自分たちが後を引き継いで頑張っていく決意を伝えていました。各学年の発表を受け、6年生は、各学年に激励のメッセージを伝え、最後に自分たちを支えてくれた全ての人に感謝の気持ちを「ありがとう」の歌で表現していました。

内容もさることながら、子どもたちの発表態度からも、下級生は6年生に対して、6年生は下級生に対して感謝の気持ちに満ち溢れていました。これも、子どもたちとともにめあてや内容を考えて、子どもたちの気持ちを会へと向けていった先生方の指導と子どもたちの頑張りのおかげです。さらに言うなら、子どもたちの前向きで明るい気持ち、他者を思いやる気持ちを1年かけて育むことができた結果だと思っています。下級生は6年生が残してくれたものをさらに発展させ、6年生は小学校で学んだことを中学校でもぜひ生かしてくれることを願っています。

保護者や地域の皆様には、今年度の本校の教育活動を支えていただき、誠にありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。



5, 6年生ロックソーラン節対決